

国際博覧会及び国際園芸博覧会を巡る動向について

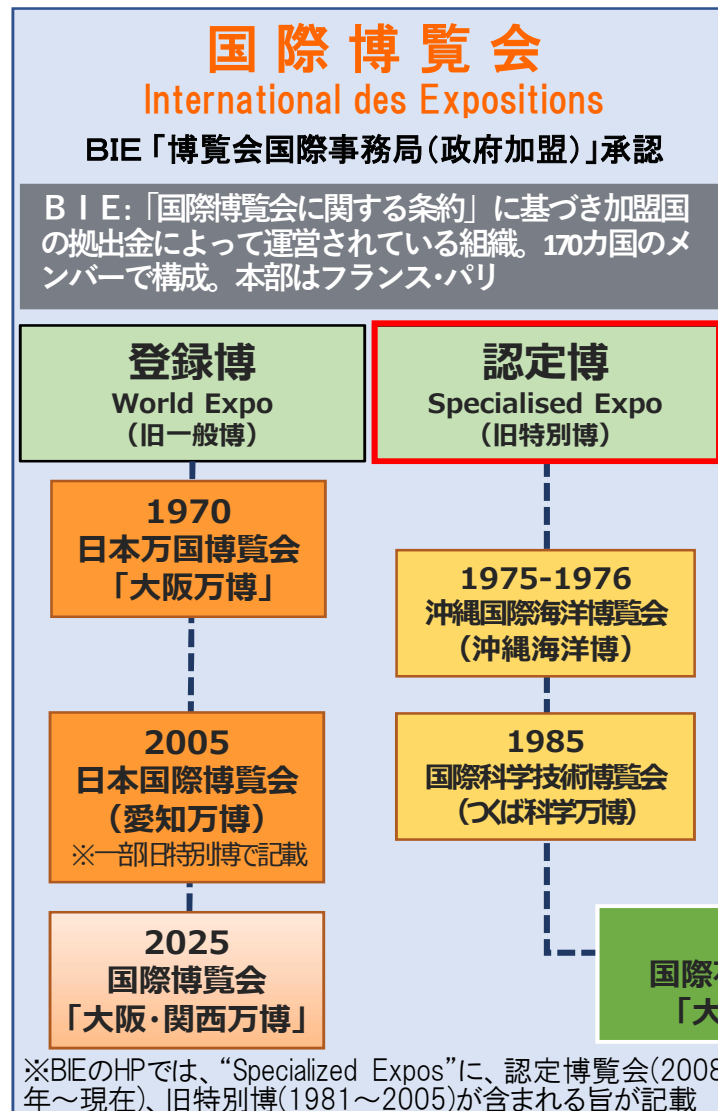
令和2年10月30日

国際博覧会と国際園芸博覧会の概要

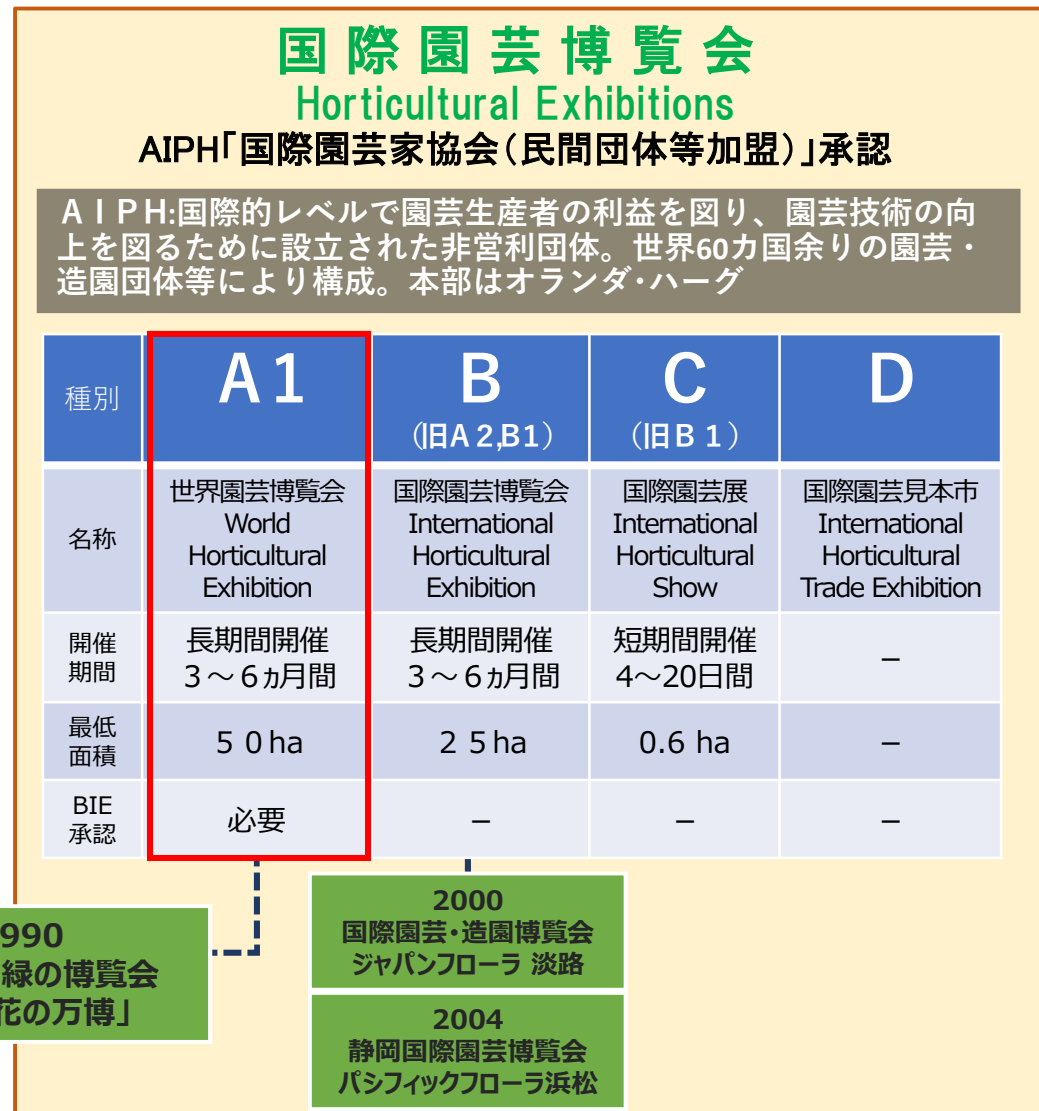
1. 国際博覧会と国際園芸博覧会の関係
2. 国際博覧会の潮流
3. 国際博覧会（万国博覧会）の主旨等
4. 国際園芸博覧会の潮流
5. 国際園芸博覧会の主旨等
6. 国際園芸博覧会の開催条件
7. 国際花と緑の博覧会「大阪花の万博」（1990年）
8. 2019 北京国際園芸博覧会

1. 国際博覧会と国際園芸博覧会の関係

国際園芸博覧会はAIPH（国際園芸家協会）の承認により開催する。BIE（博覧会国際事務局）が承認したものは「国際博覧会」（認定博）と称することができる。



*BIE: Bureau International des Expositions



*AIPH: International Association of Horticultural Producers

2. 国際博覧会の潮流

登録博はかつての”産業・科学技術の展示の場”から”人間・環境の課題解決提言の場”へ変化してきている。

認定博は多様なテーマにより開催され、1960年以降盛んに国際園芸博覧会が開催されている。



注) テーマ等は仮訳

出典1) ※巻末に資料一覧あり。以下同じ。 3

3. 国際博覧会（万国博覧会）の主旨等

「国際博覧会」とは、国際博覧会条約に基づいて、正式に博覧会国際事務局（BIE）に登録又は認定されたものをいう。「公衆の教育を主たる目的とする催し」であり、人類の進歩や将来の展望を示すものである。当初の開催主旨に加え、第115回BIE総会決議（1994年）等、時代の移り変わりに伴い求められる役割が拡大している。

「国際博覧会条約」（抜粋）

※外務省訳

1928年11月22日にパリで署名され、1948年5月10日、1966年11月16日、及び1972年11月30日、1988年5月31日の議定書で改正された国際博覧会に関する条約

第一条 定義

1. 博覧会とは、名称のいかんを問わず、公衆の教育を主たる目的とする催しであって、文明の必要とするものに応ずるために人類が利用することのできる手段又は人類の活動の一若しくは二以上の部門において達成された進歩若しくはそれらの部門における将来の展望を示すものをいう。
2. 博覧会は、二以上の国が参加するものを、国際博覧会とする。

1994年 第115回 BIE総会決議（抜粋）（1994/6/8）

- ・全ての博覧会は、現代社会の要請に応えられる今日的なテーマがなくてはならない。
- ・テーマは、全ての参加者がそれを表現できるほどに十分大きなものであって、当該分野における科学的、技術的及び経済的進歩の現状と、人類的、社会的な要求及び自然環境保護の必要性から諸問題を浮き彫りにするものでなければならない。



1851年ロンドン万博

出典2)



2015年ミラノ万博

出典3)

4. 国際園芸博覧会の潮流

国際園芸博は、欧州諸国から、アジアや中東諸国での開催に拡大している。
当初は園芸産業振興が主眼であったが、現在は園芸産業振興とともに、博覧会を契機としたまちづくりや社会課題への貢献が展開されている。

【1948】AIPH設立

共通ルールのもと展示の品質の保証された万国博覧会を開催するため、31カ国が国際条約に署名し、フランス・パリにおいて設立。

■ 欧州諸国で園芸産業振興を主眼とした開催

1960 フロリアード・ロッテルダム(オランダ)

Floriada【オランダ】

- ・オランダ国内で10年に1回開催
- ・花卉園芸産業の振興、国際見本市的要素が強い

1963 IGA・ハンブルグ(ドイツ)

IGA【ドイツ】

- ・ドイツ国内で10年に1回開催
- ・都市の環境政策やまちづくり・公園緑地整備の促進

1972 フロリアード・アムステルダム(オランダ)

1973 IGA・ハンブルグ(ドイツ)

1982 フロリアード・アムステルダム(オランダ)

1983 IGA・ミュンヘン(ドイツ)

1984 リバプール国際庭園博覧会(英国)

※ 以下、Aクラスの開催実績



出典4)

■ 欧州圏からアジア、中東諸国での開催に拡大

1990 国際花と緑の博覧会「大阪花の万博」

【テーマ】 自然と人間の共生

- ・アジアで初めての国際園芸博覧会として開催。環境問題を推進し、都市緑地の3倍増計画等幅広い戦略の一環として開催。
- ・会場跡地は、一部の施設を残し、都市公園として再整備された。



出典5)

■ 博覧会を契機としたまちづくりや社会課題への貢献に展開

1992 フロリアード・ハーグ・ズータメア(オランダ) 【テーマ】 品質、技術、科学および管理の分野で継続的な更新プロセスに関する園芸

1993 IGA・シュトゥットガルト(ドイツ) 【テーマ】 都市と自然 - 責任あるアプローチ

1999 昆明世界園芸博覧会(中国) 【テーマ】 人間と自然 - 21世紀への行進

2002 フロリアード・ハールレマミア(オランダ) 【テーマ】 21世紀の生活の質におけるオランダ園芸と国際園芸の貢献

2003 IGA・ロストック(ドイツ) 【テーマ】 シーサイドパーク 新しい花の世界

2006 チェンマイ国際園芸博覧会(タイ) 【テーマ】 人類への愛

2012 フロリアード・フェンロー(オランダ)

【テーマ】 自然と調和する人生

- ・会場は、持続可能性の原則に沿って開発され、自然地形を最大限に活用し、25haの既存の森林を保護した。
- ・会場跡地は、フェンローグリーンパークキノベーションコンプレックスとして、農業・園芸分野の起業家、研究者のためのフィールドとして利用されている。



出典6)

2016 アンタルヤ国際園芸博覧会(トルコ)

【テーマ】 花と子供達

- ・園芸と農業での経験の共有、緑地の創出と新たな雇用機会を通じた生活の質の向上を目的に開催
- ・会場跡地は、国際協力を促進し、農業問題に対処する知識を共有し、鍵を握る環境問題への認識を高めるための、国際的な技術・トレーニングセンターとしての活用が宣言されている。



出典7)

2019 北京国際園芸博覧会(中国)

【テーマ】 緑色生活 美麗家園(緑の生活、美しいふるさと)

- ・2019年は中国建国70周年にあたり、2022に開催される冬季オリンピックの基盤整備の一環として北京市延慶区において開催。
- ・会場跡地は、2020年4月28日より「北京世園公園」として開園し、生活文化の展示、園芸産業の展示、観光レジャーへの対応、冬季五輪でのサービス拠点、の4つの機能を果たすことを目的としている。

2021 ドーハ国際園芸博覧会(カタール) *2023年10月-2024年3月へと延期

【テーマ】 緑の砂漠 よりよい環境

- ・砂漠化を食い止める革新的な解決策についての想起、周知を目的として開催。
- ・会場は都市の歴史的な中心部に近い公園を活用。

2022 フロリアード・アルメーレ(オランダ)

【テーマ】 成長する緑の都市

- ・緑、食、健康、エネルギーをサブテーマとし、ひらめきと情報を見つけ出す体験を提供。
- ・会場跡地は、緑の原則に基づく新たな都市の区画として整備される。



出典8)

2027 横浜国際園芸博覧会(日本)

5. 国際園芸博覧会の主旨等

19世紀に欧州で発展した園芸展示会が、国際園芸博覧会へと発展した。当時から、「コンテスト」が本質的なコンテンツの一つであり、AIPH規則は、競技会を主要催事とすることを定めている。

■ 19世紀、園芸展示会愛好家の増加、商品としての植物取引の始まり、流通の促進等により、欧州各国で発展

イギリス

1804 ロンドン園芸協会(RHS)設立
1862 グレートスプリングショー開催
1866 国際園芸展と植物集会開催

初期の頃のチェルシー・フラワーショーの様子



1913 チェルシー・フラワーショーとして以後継続して開催

ベルギー

1807 花の博覧会ゲント・フロリア開催
1815 ゲント王立園芸協会(RSAB)設立
1839 5年毎の展覧会の開始

1908年よりイベントはそれからシタデルパークのパーティーと花の宮殿に移動し開催



世界最大のインドア庭園での花の博覧会として継続

オランダ

1908 オランダ園芸協議会
1925 フロリアードの前身となるフラワーショー開催

Bloemententoonstelling Flora 1925 Heemstede



国際園芸博「フロリアード」として1960年以降10年毎に開催

■ 1948年、国際園芸家協会（AIPH）の設立。以降、国際園芸博覧会が開催。

国際園芸博覧会のためのAIPH規則

Approved by AIPH General Meeting 26 September 2017, Taichung, Chinese Taipei

11.展示会の要件

11.3 - コンテスト

コンテストは、園芸博覧会の重要な要素で、出展者の意欲を喚起し来訪者の興味を湧き立てます。また、出展者にインセンティブを与え、主催者が優秀さに報いることとなります。従って、主催者は、競技会を主要催事として含めること、審査のための効率的な取り決めを行うこと、および、優れた品質の展示に対して適切な賞を授与することが求められます。



国際園芸博覧会2016
トルコ・アンタルヤガーデンコンテスト表彰式

写真(左から):出典9)、10)、11)

AIPHは、時代背景に応じて、国際園芸博覧会に求める役割を定めてきた。
2015年の総会では、BIEの動きに応じて国際園芸博覧会の成功に向けて、4つの取組と役割がAIPH規則に定められた。

第115回 BIE総会決議（抜粋）

（1994/6/8 第115回BIE総会にて決議）

○全ての博覧会は、現代社会の要請に応えられる今日的なテーマがなくてはならない。

○テーマは、全ての参加者がそれを表現できるほどに十分大きなものであって、当該分野における科学的、技術的及び経済的進歩の現状と、人類的、社会的な要求及び自然環境保護の必要性から諸問題を浮き彫りにするものでなければならない。

AIPH開催の成功に向けた取組と役割

（AIPH規則より、2015/10/21開催総会にて承認）

○社会の健康と福祉、環境の向上、および経済の強化をはかるための植物利用の促進

○社会における園芸（商品・技術）の必要性和、人々と自然や環境とのつながりにおける役割を明確化

○世界の最高水準の知識と最先端の技術を推進し、文化と園芸の多様性を深める

○園芸のプロフェッショナルとして生産性と国際協力の促進

6. 国際園芸博覧会の開催条件

AIPH規則において、A1クラスの園芸博の開催条件として、登録博覧会との重複開催禁止、最小展示面積等が規定されている。
BIE規則により、申込みは開催6～5年前とされている。

【AIPH】 A1クラスの開催条件

AIPH Regulations for International Horticultural Exhibitions Approved- 26 September 2017

頻度	期間	申込み期間	特定の規定
・ 1年に1回 ・ 10年毎に5回以下 ・ 10年毎に同一国につき1回以下 ・ 「登録博覧会(以前の一般博)」との重複禁止	・ 最低3ヶ月 ・ 最長6ヶ月	・ 申請書提出は開催日の12～6年前 (AIPH承認を受けた後にBIEの手続きに入ることができる)	・ 最小展示面積50ha ・ 建蔽率は10%以内(ただし、屋内出展に使用する建築) ・ 出展スペースの少なくとも5%は全期間の海外出展者用に留保 ・ 参加10カ国以上 ・ 招待状は外交ルートを通じ発行

【BIE】 認定博「Horticultural Expo」としての開催条件

頻度	期間	申込み期間	特定の規定
・ 2つの登録博覧会の間の期間	・ 最長6ヶ月	・ 開催6～5年前に開催申請 (開催4年前までに認定)	・ 最大面積規程なし

7. 国際花と緑の博覧会「大阪花の万博」(1990年)

1990年に大阪市の鶴見緑地が会場となった、アジアで最初の国際園芸博覧会である。政府の緑の3倍増構想、大阪市のまちづくり構想等を背景に、わが国の緑化の飛躍を目指して開催した。

開催概要

名称	国際花と緑の博覧会 (略称：花の万博 EXPO'90)
カテゴリ	BIE 特別博 AIPH A類1 大国際園芸博
テーマ	自然と人間の共生
ねらい	花と緑と人間生活のかかわりをとらえ、21世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創造をめざす。
会期	1990年4月1日～9月30日 (183日間)
場所	大阪「鶴見緑地」
会場面積	約140ha (駐車場・関連施設等を含む)
入場者数	23,126,934人 (計画目標：2,000万人)



大阪花の万博以降、メディアでのガーデニング特集が急増するなど、「園芸」が注目され、花壇苗の出荷量が2002年までの間に16倍に急増した。博覧会の開催後設置された「国際花と緑の博覧会基本理念継承懇談会」によって、理念継承の基本的な施策の方向がまとめられ、この方向に沿った多様な取組みがこれまで進められてきた。

大阪花の万博の基本理念を継承し、今後展開すべき基本的な施策の方向（国際花と緑の博覧会基本理念継承懇談会）

- ①花と緑の国際交流の推進 ②花と緑の国づくり・まちづくりの推進と国民的な普及啓発活動の展開
③花き・緑化産業の近代化と技術開発の推進 ④「花の万博」の基本理念を継承する公園としての鶴見緑地の活用

①花と緑の国際交流の推進

- ・ 大阪花の万博以降の国際園芸博覧会の参画
- ・ 国際シンポジウムの実施
- ・ 海外日本庭園再生プロジェクトの実施 等

③花き・緑化産業の近代化と技術開発の推進

- ・ (財)都市緑化技術開発機構(現:都市緑化機構)設立
- ・ ガーデニングブーム、その後2015年、花きの振興に関する法律制定
- ・ 花きの品質・日持ち性や緑化に関する技術開発の進展(国際花きイノベーション推進事業等)

④「花の万博」の基本理念を継承する公園としての鶴見緑地の活用

- ・ 鶴見緑地を花の万博の遺産である都市公園として大阪市が整備・管理
- ・ 区域内にはUNEP国際環境技術センターが立地

②花と緑の国づくり・まちづくりの推進と国民的な普及啓発活動の展開

- ・ 花と緑豊かなまちづくりの進展(緑の基本計画制度による社会資本整備等)
- ・ 「緑の政策大綱」に基づく各種施策実施
- ・ 全国都市緑化フェアに加えて、全国花のまちづくりコンクール、全国「みどりの愛護」のつどいがスタート 等

花壇苗の出荷量と作付面積の推移



データ：農林水産省花き生産出荷統計

8. 2019 北京国際園芸博覧会

2019年は中国建国70周年にあたり、2022に開催される冬季オリンピックの基盤整備の一環として北京市延慶区において開催。中国でのA1クラスの国際園芸博覧会は、1999年の昆明以来、2度目。会場跡地は、2020年4月28日より「北京世園公園」として開園し、生活文化の展示、園芸産業の展示、観光レジャーへの対応、冬季五輪でのサービス拠点、の4つの機能を果たすことを目的としている。

開催期間	2019年4月29日～2019年10月7日
テーマ	緑色生活 美麗家園（Live Green, Live Better）
開催地	北京市延慶区（北京都心から北西に74km。万里の長城近傍）
展示面積	503ha
参加国	86の国と24の機関
入場者数	934万人（開催前予想来場者数：1,600万人〔うち20%は海外〕）



出典13)

<会場図>



<2020年4月28日より「北京世園公園」として開園>



出典14)

8. 2019 北京国際園芸博覧会 会場

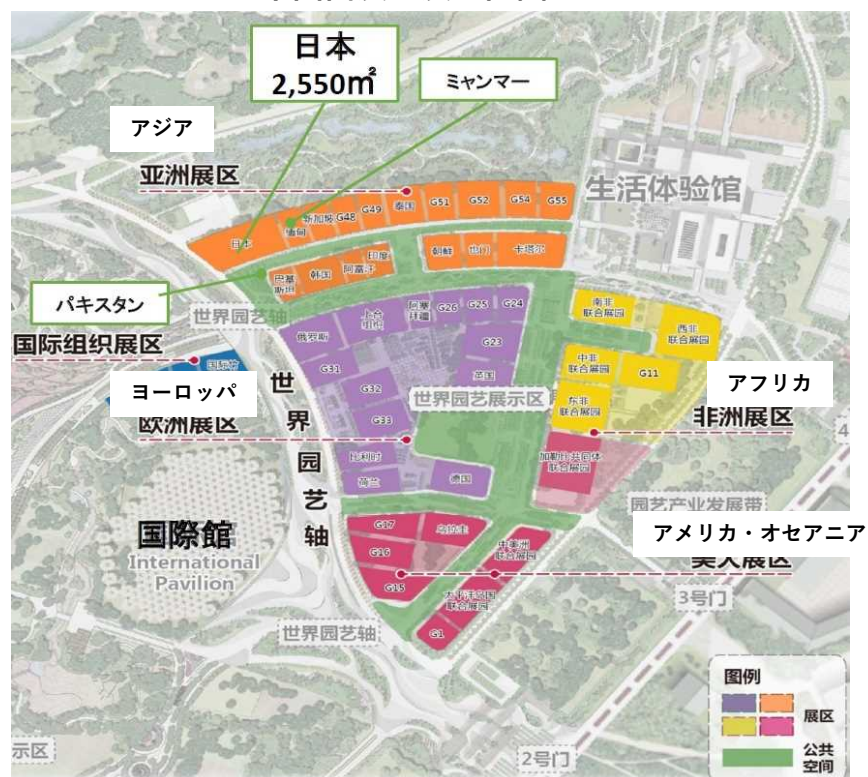


日本国出展の概要

基本的コンセプト	日本の花きと花き文化を展示する屋内展示及び日本庭園等の屋外展示が調和のとれた一体となった展示として、「庭屋一如」の考え方のもとに、多様で奥行きのある日本の園芸文化とライフスタイルの今を伝える。
展示区画面積	2,550 m ²
展示内容	日本庭園と日本展示館内での花き及び花き文化の展示

出典16)

<日本国出展の展示区画>



出典17)

<日本庭園側と日本展示館>



<日本展示館での花の展示>



出典18)

【資料出典一覧】

出典1)	写真(4点)：BIE HP https://www.bie-paris.org/site/en/all-world-expos (2019年5月31日閲覧)
出典2)	写真：BIEHP https://www.bie-paris.org/site/en/1851-london# (2019年8月21日 閲覧)
出典3)	写真：BIEHP https://www.bie-paris.org/site/en/2015-milan (2019年8月21日 閲覧)
出典4)	写真(2点)：アンタルヤEXPO2016HP http://expo2016-antalya.blogspot.com/ (2019年7月1日閲覧)
出典5)	図：BIE HP https://www.bie-paris.org/site/en/1990-osaka (2019年7月1日閲覧)
出典6)	図：BIE HP https://www.bie-paris.org/site/en/2012-venlo (2019年7月1日 閲覧)
出典7)	図：BIE HP https://www.bie-paris.org/site/en/2016-antalya (2019年7月1日 閲覧)
出典8)	図：AIPH HP http://aiph.org/aiph_event/doha/ (2019年7月1日 閲覧)
出典9)	写真：RHS Chelsea Flower Show The First 100 Years, 1913-2013
出典10)	写真：гент・フロリアHP https://www.gentsefloralien.be/ (2019年6月25日 閲覧)
出典11)	写真：Internationale Bloemententoonstellingen https://www.flora1935.nl/ (2019年6月25日 閲覧)
出典12)	写真(3点)：(財)国際花と緑の博覧会協会「国際花と緑の博覧会公式記録」
出典13)	図：農林水産省HP 北京国際園芸博覧会の概要 http://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-42.pdf (2019年8月14日 閲覧)
出典14)	左図：Expo 2019Beijing China HP http://www.horti-expo2019.org (2019年8月14日 閲覧)、右写真・文字情報は北京世園公園HP (2020年10月6日 閲覧)
出典15)	図(中央)：北京国際園芸博覧会事務局HP、その他写真は都市緑化機構撮影
出典16)	2019年 北京国際園芸博覧会 日本国出展 報告書
出典17)	写真(右3点)：都市緑化機構HP https://urbangreen.or.jp/info-support/international/expo2019beijing_japanexhibits (2019年8月14日 閲覧)
出典18)	図：農林水産省HP 北京国際園芸博覧会の概要 http://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-42.pdf (2019年8月14日 閲覧)